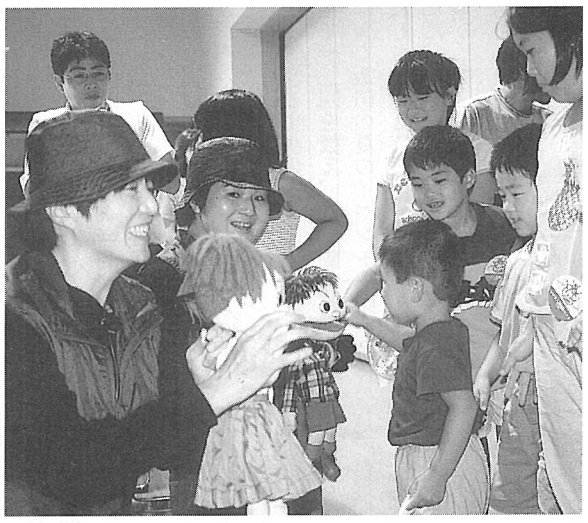
真夏の祭典 輝く笑顔と感動を
―いいだ人形劇フェスタ2001―

今年もまた竜丘の地に、人形劇がやってきました。待ちこがれた子どもたちは、人形劇を楽しみ満足なひとときでした。各公演会場ごと実行委員と劇団との交流会も楽しくでき、飯田の熱い夏が終わりました。

日本最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ二〇〇一」が、「家族再発見～こころの世界を共有しませんか～」というテーマで八月二日から五日までの四日間の日程で開催されました。竜丘地区においても、各分館で公演が行われ、多くの家族連れなどが訪れ楽しみました。

新竜丘公民館では八月五日、三重県の人形劇団「どむならん」が「ぼくが一ばんつよいんだぞ！」を上演しました。午後一時からの開演でしたが、会場には定員の二百名を超える多くの親子連れが早くから訪れ、開演を今か今かと待ちました。新公民館のホールで初の上演となりましたが、冷房も効き、人形劇を観るには絶好の環境でした。


劇人と触れ合うひととき

公演の内容ですが、主人公は一人の元気な男の子で〝げんこつ横丁〟という街を舞台にした話でした。この男の子は自分がこの横丁で一番強く、強ければ何でも自分の思うとおりになると考えていました。そこへもっと強い女の子が引っ越してきたことにより、この男の子はさらに強くなろうと修行の旅に出て、ライオンなどの動物に強くなる方法を教えてもらいました。その結果、動物たちから王様になってほしいと頼まれるが、げんこつ横丁が恋しくなり、強いだけでは駄目なんだということを学ぶという話でした。

会場を埋めた子供たちはまるで自分が主人公の男の子であるかのように話の中に引き込まれていっていました。上演後、劇人たちがホールの入り口で「また会おうね」と見送りをしてくれ、間近で人形に触れることのできた子供たちの目はとても輝いていました。

長野原区民センターでも八月四日、愛知県の人形劇団「YMM」が名作「アラジンと魔法のランプ」を、岡山県の劇団「みちのく」が「手あそび」と紙芝居人形劇「ゆうびんうさぎとオオカミがぶり」を上演しました。「YMM」は女性ばかり三人の劇団でしたが、大きな人形を使い舞台狭しと楽しませてくれました。また、「みちのく」は大学を卒業したばかりのOBによる劇団で、とても若々しいステージを繰り広げ楽しませてくれました。特に手あそびはキツネから始まりカニ、カエルと作り方を交えながら、観客も一体になって楽しみました。この日は暑い日でしたが、人形劇に夢中になるうちに暑さも忘れてしまいました。

どの会場でも子供たちからは「おもしろかった」「また観たいね」などの声が聞かれ、たくさんの感動と交流が生まれた今年の人形劇フェスタでした。

人形劇フェスタも回を重ねるうちに、観る側もより良い人形劇を観たいと思うようになり、演ずる側もそれに答えようとしているので、来年も期待したいと思います。

自分を見直し そして地域を見直そう
―生涯学習特別講座開かれる―

新公民館完成記念として、「生涯学習を考える」講座を去る九月四日に開講しました。

内容は、第一部に「社会教育の歴史に学ぶ」の四講座。第二部は「国際化・情報化・高齢化社会を生きる」としての四講座です。

現代は、「主体形成の時代」ともいわれています。情報の氾濫や報道の自由などもあり、多くの考えさせられることがあります。

第一日目の講座は「公民館とは―下伊那の文化的風土と寺中構想―」と題して、都留文化大学講師の松下拡先生でした。

飯伊地方の戦前からの文化活動や社会教育運動の歴史、戦後打出された公民館の設置構想を当時の青年達の活動によって推進されてきたことを話されました。

昭和二十三年発足した竜丘公民館の初期の頃の話など、当時の社会情勢をふまえ、地域の人たちが「俺達の学習を俺達がつくっていくんだ」という意気込みのようすを話されました。

この講座を聴いた受講生は、公民館の原点を多量の資料を用いて理路整然と説明される熱っぽい先生の話を、私たち自身が公民館とかかわってきた過去を顧みて、今後の公民館活動の在り方を新たに考えさせられました。

その講座を受講したみなさんは、四十余名もおり、地区外からも十数名が参加していました。資料に線をひいたり、メモをとったり熱心なみなさんでした。

第二回以降の講座のテーマは次のようです。

「戦後社会教育の歩みと二十一世紀への可能性」「生涯学習論」「下伊那テーゼの今日的意義」

また、十月から行われる第二部は、「生涯学習と私」「自己発見の技術」「地域再建と学び」「学びの再発見」と現代社会に生きる私どもが学んでおかねばと思われるものばかりで、第一講座を学んだみなさんは、今から楽しみにしているようでした。

縄文時代にタイムスリップ
公民館委員研修旅行

去る七月二十日、竜丘公民館委員研修旅行が行われました。

今年度は、民俗資料保存委員が幹事となり、〝古代のロマンにタイムスリップ―八ヶ岳の裾野に広がる歴史を尋ねる盛夏の旅―〟と題し、三十二名が参加して行われました。

楽しいガイドさんの説明を聞きながら、最初の目的地、富士見町の井戸尻考古館を視察しました。

考古館には、八ヶ岳西南麓から発掘された縄文時代の文化遺産、約二千六百点が収蔵されていました。遺跡の周辺には、スイレン、コウホネなどの水生湿性の花々が咲きほこり、縄文の生活に思いを馳せ、当時の人々に心を寄せる事ができました。

つづいて、緑とさわやかな大自然に包まれた富士見高原にそびえ立つ伊東近代美術館を訪れました。

ここには、伊東深水、横山大観をはじめ第一線で活躍した画家の日本画二百点、彫刻では、我が国彫塑界の至宝、平櫛田中の特別室があり田中芸術の諸作品が展示され、三百五十余点の収蔵品の美にふれ、高原でのひとときを満喫しました。

最後に、茅野市にある尖石縄文考古館を視察しました。

縄文のビーナスの愛称で親しまれる美的感覚の優れた国宝「土偶」や仮面土偶、力動感あふれる土器や精巧な石器など二千点余りの縄文時代の遺物が展示されていました。

スライドで当時の様子を見たり、体験コーナーでは、土器の文様づけ、火起こし、縄文服を着て縄文人になってみようなど「縄文王国」の名にふさわしく、当時の優れた芸術性を鑑賞できました。

昼食は諏訪湖ロイヤルホテルでいただきました。

縄文時代を満喫した委員の皆さんの会話もはずみ、心と体を温泉で温め、英気を養ったすばらしい研修となりました。

成人式のお知らせ

平成十三年度の成人式は、平成十四年一月十三日（日）午後一時三十分から、竜丘公民館で式典・祝賀会などを行います。実施に当っては、新成人の代表のみなさんが実行委員となってすすめていきます。

ヤブ蚊

私たちは、買い物をするとき、安くて品質のよい物を選ぶのが普通です。とくに最近はデフレが進んでおり安い物が、もてはやされています。安ければ良い、この論理がまっこうから直撃したのが、農産物ではなかったかと思います。国内で作るより、外国から買った方が安いし、多量に販売できるから、どんどん輸入する。国内品は高いし、味も同じだったら、輸入品の方がいい。その結果というと、先進国最低の三十パーセント台の自給率とは、おかしなものです。

最近では、製造業が外国との比較にさらされています。東南アジアを中心とした生産ラインの移管による国内産業の空洞化。コスト競争で、われ先にと安い労働力を求めていく企業。その結果が地場産業の衰退と国内空洞化。今の失業率増加と関係があると思います。

このようなことを書いている私も、現在、中国に出張をしています。月給、わずか六千円程度で一日、十時間働く労働者。まさしく、グローバル化の最前線にいます。

日本では痛みを伴う改革が叫ばれており、多くの国民がその言葉に酔いしれているようですが、痛みを果たしてどのように考えているのでしょうか。実際、どのような改革が行われるのか、私たちの生活が、仕事が、どのように変化していくのか分かりません。アメリカでの同時多発テロで、世界の緊張も一気に高まっています。様々な不安感をあおる情報も増えています。

私たちも自分の生活を今一度冷静に考える必要があると思う日々です。

館報たつおか

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,789人
男子	3,351人
女子	3,438人
世帯数	2,083戸

（13年8月末現在）

美しい音楽に魅了された

アフィニス くつろぎコンサート

八月二十六日（日）、竜丘公民館大ホールでアフィニス夏の音楽祭「くつろぎコンサート」が開催され、子どもからお年寄りまで約四百人の皆さんがクラシック音楽に終始魅了されました。

アフィニス夏の音楽祭とは、内外の超一流指導者による、若手オーケストラ団員の講習と演奏会です。今年で十三回を数え、人形劇に次ぐ飯田の夏のイベントとして定着してきています。ただ、クラシック音楽ということで、どうしても「敷居が高そうだ」という声があるのも事実です。この「くつろぎコンサート」は市民と音楽との気軽なふれあいを目的に、一昨年から座光寺麻績の館で開催されていたものです。今年は、竜丘公民館が新築されたことで座光寺と竜丘での二会場同時開催となりました。

竜丘には、講師陣と受講生合わせて三十一人の演奏家が訪れました。午後五時に開幕したコンサートでは、モーツァルト「フルート四重奏」、ショスタコーヴィチ「ガボット」など、弦楽器、管楽器の多彩な編成で十数曲が演奏されました。

進行役の岡山潔さん（音楽祭全体の音楽監督、ヴァイオリン講師）の軽妙なお話や外国から参加された講師の方々による楽器の紹介などもあり、終始リラックスした雰囲気の中で、最高級の室内楽を楽しむことができました。また、通常はあまり例がないとのことですが、チェロとコントラバス（共に低音域の弦楽器）の二重奏や、国内で初めての演奏となるファラックのピアノ五重奏も披露されました。さらに、竜丘コーラスと観客全員による合唱、地元高校生がトランペットで参加した「川の流れのように」の演奏もあり、とても楽しいコンサートでした。

竜丘での開催は初めてのことで手探りの運営でしたが、公民館委員、大人の学校、商工会など百人近い地元実行委員会の皆さんが準備を重ねてきました。会場を飾ったアフィニス（花たばこ）の花は五月から準備したものです。また、演奏会に「くつろぎ」を添えた、おにぎりやサンドイッチなどは、おいしんぼプラザの皆さんが丹精込めて用意したもので、演奏家の皆さんは「地元の皆さんの温かいもてなしもあり、観客の皆さんも楽しんでくれている様子で、気持ちよく演奏できました」と、満足されていました。

新公民館に新しい文化行事が花開いた、素晴らしいひとときでした。

大ホールいっぱい 七年目の始業式

大人の学校

八月八日に竜丘公民館大ホールにて七年目の始業式が開催されました。

大人の学校は平成七年七月十六日に創立され、開校当時は四十余名の生徒数でしたが、今年度は新入生を十八名迎え、百四十名と発展してきています。

始業式では学級歌斉唱から始まり、木下校長挨拶、班編成、各地区連絡長の選出や、クラブ活動の再編が行われました。

本年度は、新たに陶芸クラブとIT・KURABUの二つを加え全部で十六種のクラブ活動が始まっています。また年間計画も発表され、童謡を歌う会や国際交流、世代交流、といった行事も盛り込まれました。

その他に、ふるさと学習、竜丘の人物についてなど各クラブの発表会も計画され、一人一人が意欲的で生き生きできる場が提供されて、地域の中で活躍する活力となっています。

また、年度末に恒例となっている修学旅行は、六月二十八日に行われました。当日はバス二台、全員で八十三名の参加があり、長野市の善光寺参拝と長野県庁見学もしました。

県議会会議場の傍聴は殆どの人が初めてで、田中康夫知事と議員の審議のやりとりを大変興味深く見聞きしていました。

そのあと、知事室で田中知事と会い、握手をしたり、写真を撮ったり、普段できないことを体験しました。また知事から名刺をもらって喜んでいた方々もいたそうです。

六年目の修学旅行を楽しく終え、七年目の出発につなぐ事ができました。

竣工記念球技大会 盛大に開かれる

去る七月二十二日「新公民館竣工記念球技大会」が、桐林グランドと小学校で開催されました。

朝から太陽が照りつける猛暑のなかで、熱の入った試合が繰り広げられました。

男子はソフトボール、女子はキンボールにと汗を流しました。

各分館からの参加で、男子十七チーム、女子二十四チームと多数で競技が行われました。ソフトボールは、珍プレー好プレーと熱がはいり、お互いに楽しく交流を深めました。

女子の「キンボール」は、最近ニュースポーツとして紹介されたもので、直径一メートルほどの大玉を使って行う、見た目よりとてもハードなスポーツでしたが、日頃の運動不足をものともせず、白熱した戦いとなり、随所に好プレーが見られました。

試合を終えたあとの表彰式と交流会には、公民館の大ホールがいっぱいになるほどの参加者がありました。「竜丘全体での交流会は、今までなかったなー」との声があちこちで聞かれ、試合の話、新しい公民館の話と話題もつきず、お酒も入り、時間を忘れて楽しい時をすごしました。

早くから準備に係わったみなさん、ご苦労様でした。

感動に浸る 親子映画鑑賞会

市民大学講座第一講開催される

去る七月二十一日蒸し暑い中、第二十三回竜丘地区市民大学講座第一講が開催されました。

今回は小学校のPTAの方にもお手伝いいただいて〝親子映画鑑賞会「ハッピーバースデー・命かがやく瞬間」〟が大ホールで上映され、三百人を越える参加者がありました。

この映画は、家族崩壊、学級崩壊が増えている現代、悲しみから希望へと再生する物語です。

内容は、主人公のあすかは十二歳の誕生日に、母親の愛情を期待していたが、「あすかなんて生まなきゃよかった」の言葉を聞いてしまいます。それまで母親から精神的虐待を受けていた事も重なり、心に大きな傷を負い声が出せなくなり、それが原因で不登校になってしまいます。あすかのクラスにはいじめがあり、その少女は自殺を考える程でした。あすかは兄の勧めで心と身体を癒すため福島の祖父母の所で過し、だんだん自分をとり戻し声が出せる様になります。

家へ戻ったあすかは、クラスにあったいじめに自ら立ち向かい活動を起こし、クラス交流の代表をしていた障害学校の少女と出会い、短命の少女からも命の尊さと生きる素晴らしさを学びました。そんなあすかは、母の心、クラスの友情など周りの状況をも変えていきました。

親としても人間としても考えさせられる映画でした。

上映中にはハンカチを目にするお母さんの姿も見られ、始めに配られたアンケートにも、「勇気を持つ事、あきらめないで立ち向かう事の大切さ…心に響く映画でした」など感動の文が寄せられました。

親子の愛情、友情、命の尊さという大きな問題を、この映画を通して親子、友だちで語り合ったのではないでしょうか。

パソコンで情報を得る面白さを!!

IT講習

公民館の「ふるさと学習室」に、ノート型パソコンが二十台並んで受講生を待っていました。

竜丘公民館では、地域の方々の要望に応えるため、七月九日から「IT講習」を開始してきました。

パソコンの基本となる操作を習得するのに十二時間を要するということで、多数の方の申込みを、受講者の都合に合わせ、午前、午後、休日、夜間などにコース別編成して実施してきました。

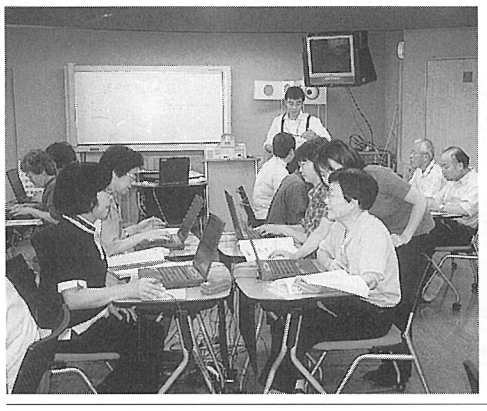
講座の内容としては、初めて触れるパソコンの仕組みと、パソコンの通常つかう機能を教わりました。

具体的には、図や文章をかくこと、ホームページを通して情報を知ること、Eメールでお互いに通信を送受信することなどを学びました。中でもパソコンの操作で、色をつけた図形を描く講習では、「不思議だ」と興味をもつ受講者が多く見られました。

また、飯田市のホームページを開いて、ITにより情報を得る面白さを知った他、竜丘小学校の情報や、公民館の情報を開いてにこにこする人もいました。

参加者の多くが、Eメールの送受信操作が一番楽しかったようで「届いている?」「私の送った文があなたのパソコンにでている?」など元気な会話が部屋のあちこちで聞かれました。

二百二十名の受講者により、七月から始まった一連の講習は、ひとまず九月中旬で閉じますが、今後も多くの要望があれば、第二回の開講を検討するとのことです。



「丘のみちしるべ」誤りの訂正

お詫びして訂正します。

二十二ページの大野保造の算額の写真が、長石寺と金山神社とが入れ替わっていましたので、右の写真を長石寺、左を金山神社と訂正します。

九十七ページの兼清塚の項のところの駅沢橋を駒沢橋と訂正します。